

911.3

カ

本式并古式

會席法度之古式

- 一 會刻限定くわいげんてい了りょうぬぬハ急進きゅうしんより座列ざれつとときき事こと
- 一 指用さしもちも方かたに軍ぐん意い不ふ立た席せき友とも
- 一 向むか以も高たか慶けい福ふく吟ぎん雜ざつ談たんすす海うみきき事こと
- 一 座ざ字じととななしし候こうトトきき事こと
- 一 小こ祈いのりりり行ぎやう法ぽうをを名なにに候こうトトきき事こと
- 一 末すえ座ざ乃の為ため軍ぐん意い合あ紙し高たか慶けい小こののぐぐ事こと
- 一 身み指さし不ふ及およ足あ合あ紙し沙さ法ぽう者しや付つ者しや階か小こ隣りん死し
- 一 人ひとよよ玄げん傳でん小こ無む事こと
- 一 其その席せき之の宗そう道どう不ふ指さし合あ不ふ立た論ろん事こと
- 一 初はつ心しん人ひと不ふ可か致ち尚しやう教きやう事こと

我待る句ふは白不附乃心不也立其相
不叶あわば無足能事
一海彦己系不河立席得夏

右水件

△千句法度

雪月花 出合遠近 一句一直

出停止

月日

△本式古式

一面十句 每句数句以終句日合すす

一賦抄 昔ハ每句日取拍有一段ハ拍子三を

一面ノ名義終とて 名義と名不又句去

一季ハ不句去 但し内代乃季去ては二十句隔

も季不也

一月花松夢 泪竹 舟烟 十句去

一景拍をてて之句去ては前打紙もす

雪月花 郭云 床是紙巻也云

一降拍と降拍打紙云

一從耳拍ねる

一 卷本おね

一時鳥 寐覚 景物用之

一 松橋原関 猿 山形用之

一 季ハ二句より可掬

一 名張ノ裏六句加無

一 古川ハ應安ノ新式此ぶく明應元年

十二月日

此ハ昌隆ノ後ノ小

一 一ノ面ハ字不若

一 一ノ裏カドヨリ新教乃ハナドクハカク

一 面ト裏ト下ノ句みケ花不若

一 張ノ字托ノ句ニモ有

一 張ノ字ニモ有

一 張ノ字ニモ有

一 刺おくて、口トアル面有

一 月ニ純ルト有裏ニ内出ルト有

一 宗祇ノ句ニ句表ト二句トハ同面ニ有

一 吹風 同折ノ有

一 宗祇ノ句ニ句表ト三句トハ同面ニ有

一 宗祇ノ句ニ句表ト三句トハ同面ニ有

思案

季吟

一草本河上本下本茶上草、打紙七條十二
 一草本下茶ノ君ニ向ト云草
 一階抄河も草本は、准
 一草子鳥ト獸虫魚此間ニ向ナリ
 一橋ト云子向河向子不若
 一草子鳥ト獸虫魚此間ニ向ナリ
 一草子鳥ト獸虫魚此間ニ向ナリ
 一草子鳥ト獸虫魚此間ニ向ナリ
 一草子鳥ト獸虫魚此間ニ向ナリ
 一草子鳥ト獸虫魚此間ニ向ナリ

と多能ノ向

と多能ノ向

と多能ノ向

と多能ノ向

と多能ノ向

一本式會

連流十人二流花一本五ノ向ノ如

多能ノ向第三具所之ノ向

一船の要行ノ向ノ間ノ道ノ向ノ如

と多能ノ向

名茶氏書之けざし又より習ふの時ゆめ
粟とて所一うるぬまハさうとてむとむとむと
心鳴くぬ為なり

一 主之衆に銘く香爐なり百韻は雅く香煙不
切やうととゆ中なり心見合軒要あり

一 白ひ花乃のり本なるを往て持出るなり

一 白ひ乃花の白紫下襟をさるの依者様はさるが
相違なり執事より茶白紙吟じたるなり其時香

を御影之茶より向てむ乃白吟じたるなり
連宗は花茶の繙張ありとちんを西より

て表の表なり

一 花裏表八本なり

一 月常はぶく七ツなり又うらとてみても不若
ん合ふ道初者老人を想し不功者必し病く
事いづきを有るなり

表十句

月雪花 清きぎん名不 二株之

此 醜く枯相鉄軒要

然ハ不入神頼ハ多く發句よの多し

右水件

一むう長頭丸老後み本式の遊諧あり人を
小はさるる良徳を以て不也と云くしてまづ
りり人の良徳を見てを以て笑ふ此の良徳
も目とくして居る無かり何事かの笑ふやと
ことを終りねばまに中よりさ終らば冠弁乃
老人大紋を以て恵ぼしをきとす終り
やうなりと云長頭丸泪を流しぬるに古交
りり本式乃連続とも云平の笑き何る終
を以てく式報を以て席を空みたり志す
を今も終らば何をの笑と云く終り

一むう一疾無さありや容易に連名
合せても真行終り有ぬしき事や
一他ノ季も又向を表十向く内ハさる
有ぬしき者ある

と云は終り

案曆九^{己卯}歲陸月上旬發行

北御堂前本屋

森田庄太郎

心齋橋筋西田屋

名倉理兵衛

舟町 清水屋

山崎仁右衛門

浪卷津書林



